

優良農家の紹介

若い力で和牛産地に新しい風

はじめに

美方郡では繁殖和牛農家を中心に後継者が就農している。そんな中、2003年に美方郡の35歳以下の繁殖和牛農家が組織する「みかた和牛会（以下和牛会）」が設立された。現在、会員は8名で視察研修や勉強会を行っている。

設立の経緯

美方郡には若い繁殖農家が多い。しかし、若い農家同士のつながりはあまりなく、お互いの情報や意見を交わす機会がなかった。そのため、若い農家は各自で規模拡大や技術の導入を行い、特に新規参入者は相談する仲間も少なく、ひとりで悩みながら技術力の向上や情報の収集を行っていた。そこで青年農業士3名が発起人となり、仲間づくりや視察研修、情報交換などを通じて、お互いの経営を安定・発展させることを目的に和牛会が設立された。

毎年恒例の県外視察

和牛会では、1年に1回県外へ視察研修に行っている。今まで北は岩手県から南は宮崎県まで多くの和牛の産地を巡り、粗飼料多給型子牛育成など新しい技術や規模拡大へのヒントを得たり、全国から見た但馬牛の位置づけなどを理解することができている。この視察研修から新しい取組が生まれ、和牛会の活動が活発になっている。そのため、会員もこの視察研修を毎年楽しみにしている。

粗飼料多給型子牛育成技術の確立と普及

宮崎県で粗飼料多給型子牛の育成技術を視察研修し、2004年から和牛会でも取組を開始した。最初に過去の試験研究などを参考にマニュアルを作成し、それに沿って飼料給与を行っていった。また、粗飼料を多く食べさせるためには、生後3か月齢までの発育が重要と考え、環境の整備や疾病

対策を徹底し、濃厚飼料の摂取量を高めることで発育の向上を図った。これによって、骨格が大きく、腹囲が大きい子牛を生産することができた。この取組は、現在県下に広がっており、但馬家畜市場では「すすく草育ち」という名称で取り組まれている。

みんなで考えることが重要

和牛会では定例会はないが、勉強会や懇親会など情報交換を多く行っている。そのような時に会員が自分の牛舎の設計図を持参し、みんなで牛舎の構造を検討したり、資金計画についても相互にアドバイスをしている。お互いの情報を共有することで、自分でもできるという考えになり、会員の規模拡大が進んできた。

活気ある産地を目指して

現在、美方郡内の繁殖和牛農家の後継者が数名、就農を希望している。これら新規就農者にも和牛会が中心となって技術や経営の支援などを行うことで、後継者が円滑に安心して就農できるものと期待している。

井上 智晴（新温泉農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0796-82-1161）



図 先輩農家が牛舎構造をアドバイス

ひょうごの農林水産技術 No.160

平成 20 年 11 月 1 日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400